

## 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

### 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さつま苑 B棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大口市針持 1235 - 8
記入者名 (管理者)	濱田 千穂子
記入日	平成 20年 7 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅰ. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしく暮らすという地域密着型の意義を、スタッフが理解し、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全スタッフ入居者が、苑の理念を全員で唱和し、自分の事として考え、日々実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	日々、家族や地域との交流は行われているが、さらに理念や役割の広報、啓発を進めて行きたい。		ホームだよりの発行
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接の温泉施設の、お客さんとのふれあいや、近所の方が野菜を届けたり、花の苗を分けたりと日常的な付き合いがある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園・小学校との交流会、老人会とのコスモスの種まき、花見など地域の方との交流を持っている。		地域の方との、防災訓練(8月予定)

鹿児島県 グループホームさつま苑 B棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方の相談にのったり、苑の見学、グループホームの役割等についての説明を行っている。人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。		中学校の職場体験受入れ。小学生や婦人会の方へ、認知症について、交流会時に説明し理解してもらうようしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で評価を行い、自分達の事として評価を生かした改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑の取り組みの報告、行事の計画参加依頼協力をお願いしたり、苑に寄せられた苦情・事故報告も行って、広くメンバーより、意見や要望を伺い、開かれた苑を目指している。		運営推進委員会議メンバーの中に、入居者代表も加えて行きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型連絡協議会を通じて、市町村の方より、情報を頂いたり、苑の取り組み等、お知らせしたりしている。又、運営、サービス等で分からない事も、質問させて頂いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	評価を通して、今回も勉強会を開いた。又、権利擁護について、資料を談話室へ置き、理解を深められるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を今回も行って、全スタッフが、虐待による弊害を理解しており、虐待「0」の取り組みを行っている。又、家族の方にも苑が、支えになれるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約・疑問なときは、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。又、決定は、本人・家族にしている。</p>		<p>受診・緊急時の対応、苑の理念、基本的運営方針、リスク、料金等、納得して決定して頂いている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の意見・苦情・不満は、その都度対応し、介護記録・申し送りノートに記録し、スタッフで共有し、スタッフ全員が自分の事として、改善していけるような取り組みを行っている。</p>		<p>認知症である事を理解し、声にできない心を感じられるケアを行っていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>来訪時、状態変化など、家族に生活の様子を伝えている。又、スタッフが担当を決め、近況報告を行っている。</p>		<p>月1回定期的の近況報告を行う『文の日』継続実施。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に明示し、ご家族にも文章で説明している。</p>		<p>家族会の立ち上げ計画中。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員から出された意見は、全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の離職にともない、調整が難しい時期もあったが、現在、ご利用者や家族に合わせた勤務体制になってきている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ベテランスタッフの力を借りながら、無理なく入居者と、良い関係作りが出来た。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	研修会に参加した時は、内容をスタッフ全員に報告し、苑の中で実践できる事はないが、話し合いを持っているが、全員が研修会等へ出席は出来ていない。	職員会にてスタッフより、病気や接し方等について、勉強会を開いて欲しいとの事について、勉強会の計画を立てて、知識の向上を図っている。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの交流があり、相談や情報交換を行っている。又、3苑合同の交流会があり、入居者スタッフ、共に楽しい交流ができた。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間で、話しをする機会を持ち、ストレスを発散したり気分転換を図れるように努めている。時間調整により、休息時間の確保を行っている。	外部と接する機会を設けたり、親睦会の開催、スーパーバイザーの導入を検討して行きたい。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	協働している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みから入居になるまでの期間に、家族・本人と事前に面会を行い、心身の状態・本人・家族の希望を伺い、本人に納得して入居していただけるようにしている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立って、困っている事、不安な事、本人との関係、家族間の事等、話をしてもらい、思いを受け止めた上で、本人を含めた関係作りをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の今、困っている事、不安に感じている事を、ゆっくりと聞かせてもらい、相談内容に応じて、関係機関との連携を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、ご本人・家族に面談し関係づくりに努めている。又、本人が納得されて入っていない場合は、家族の方の力を借りながら、慣れていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、入居者を『人生の先輩』として尊敬しており、苑の理念に掲げてあるように『互いにくつろぎ 互いにやすらぐ』という関係を大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	その方の、日々の暮らしぶりや日常の出来事、変化等の気付いた事を家族に伝え、情報の共有化と家族の思いに寄り添い、スタッフはその方を家族と一緒に支えていく気持ちである事を伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	苑に移っても、家族との関係が途切れる事がないように、日々の報告をまめに行ったり、行事の誘いをしたり、本人の思いを直接伝える機会をつくっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何十年も通い慣れた医師のもとに診察に伺い、昔話をされたり、昔の仕事仲間との交流があったり、昔の関係が途切れないよう支援している。		近隣の方との面会支援。自宅訪問、墓参り、葬儀、法事等の支援。ドライブ等。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団生活をする上で、相性の良し悪しに配慮したり、物事の善し悪しをスタッフの目線で判断する事はせず、気持ちに寄り添う。又、孤立しないように、スタッフや入居者が、調整役にまわって共に暮らしている。		入居者の方向同士の、共通の会話の引き出しや雰囲気作りをしている。ほっとする居場所作りの、支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設入居の方がおられるが、面会に行き、遠方の家族の方に状況報告をしている。又、季節の変わり目には、衣類の入替等に伺ったりしており、家族から感謝されている。家族の方も、退去されてからも、尋ねて下さる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・家族などから、生活歴、既往歴などを細かく聞き、又、現在の気付きを生かし、本人の意向に沿った暮らし方に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人なりの暮らしの実現のために、ご本人やご家族から、情報収集をし活用している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人の、旧の暮らし方や生活のリズムを把握し、行動のみにとらわれる事なく心理面に視点をあて、本人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや希望・主治医の意見・スタッフの気付きやアイデアを、反映させるようにしている。ケアマネを中心にスタッフ間で話し合い、介護計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々変化する、その方の状況を念頭に本人・家族の要望・主治医の意見を取り入れて、期間終了前に見直し、その方の状態に応じて期間前での見直しをしている。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 B棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況状態、思いをケース記録へ記入し、ミーティングや申し送りにて確認している。又、ケース記録にて評価を行い、計画の見直しを行っている。		ケース記録用紙を個別に作成し、プラン内容に沿った記録へ改良していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、受診は対応できている。買い物・墓参り外泊等も連絡をとりながら、実施している。		協力医との連携にて状態悪化時の往診。家族の宿泊等への支援。葬儀・法事等への外出支援。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入所者が、安心して暮らし続けられるよう駐在所・民生委員・老人クラブ・公民館長・地区コミュニティの代表者等に、苑の行事に参加してもらい、意見交換する場を設けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、近くの理美容院を利用している。家族の面会時には、隣接する温泉を一緒に利用される方もある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、ご本人・家族からの権利擁護、総合的且つ、長期的ケアマネジメントの意向はない。		ご本人や家族の意向があれば、対応できる。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からの主治医を希望される方には、通い慣れた医療機関に定期的に、又は、心身状態に合わせた受診の支援をしている。家族が同行できない方には、ケアマネが同行受診し、日々の様子を報告するような体制をとっている。		家族が同行される方には、日々の様子・変化をメモして主治医に報告してもらうようにしている。又、家族同行でも必要であればケアマネも同行して、主治医との情報交換をして、適切な医療が受けられるようにしている。

鹿児島県 グループホームさつま苑 B棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医を受診し、入所者個々の認知症の変化を見極めてもらい、助言・指導を含めた相談にのってもらっている。今後、予想される変化や対応方法を助言してもらう事で、スタッフ間で話し合い、早期に対応できている。		本人・家族と相談し、主治医に紹介状をもらい専門医を受診し診断、今後の変化を家族を含めて聞くことができ、早い段階で将来について考える機会になっている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入所者個々の主治医・苑の協力医に気軽に相談させてもらい、緊急時にも対応してもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族を交えて担当医と話し合い、苑での対応可能な段階で、なるべく早期退院できるよう取り組んでいる。入院時は苑での本人の状態を、病院側へ詳しく情報提供すると共に、スタッフも面会に行き状態を見守っている。		スタッフが面会する事で、本人・家族にも苑に戻れると励みになった。本人と家族では行き詰まりを感じていたが、スタッフが顔を見に来てくれる事で力強く感じた。ありがたかったと、言っていた。医療機関との情報交換の場にもなった。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化を、家族に報告・相談しながら家族の意向を確認し、主治医やスタッフと話し合いを行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族・主治医と連携をとりながら、苑で出来る事、出来ない事を話し合い対応している。出来ない時は医療機関施設に、お願いをするようにしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が、戸惑う事が最小限に食い止められるよう本人の状況・習慣・好みや支援の内容や苑でしていた工夫など、細かい情報提供を行い、住み替えによるダメージを最小にするよう努め、スタッフが訪問する機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方の人格を尊重し、認知症からくる言動も、その方の個性として受け入れ否定しないよう努めている。地域密着で地域と協力する中で、個人情報保護法の理解に努めている。個人情報を使用する場合は、事前に同意していただいている。	個人情報保護法の勉強会
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事や入浴、その日に着る服等、日常生活の中で、その方の希望を聞きながら、自由に選んでいただけるよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを、その方の体調・希望・思いを大切にして、その方のペースに合わせて見守り、時にはスタッフがゆっくり対応する等、柔軟な支援をしている。時には朝寝をしたい方は、ゆっくり休んでもらい遅れて食事を出している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る服を一緒に選んだり、行事や外出時には、特に自分らしいおしゃれが出来るよう支援している。本人も希望に合わせて近くの理髪店へ行く方、スタッフにカットしてもらおう方、訪問理美容を利用される等、その方に合わせた支援をしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者と一緒に献立を考えたり、畑に野菜を採りに行ったり、出来る方には、一緒に調理をしたり味見をしてもらったり、盛り付けをしてもらっている。	立つ事が出来なくても、テーブルの上でゴマをすってもらおう。野菜の下ごしらえをしよう。味見をしよう。自分の前だけでもテーブルを拭いてもらい、自分も一緒に作ったという気持ちを共有するような支援をしている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時と3時に、お茶の時間を設けて、それぞれ好きな飲み物を出しているが、それ以外でもその方の飲みたい物、食べたい物をその人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。	家族からの預かり物は、居室へ運びスタッフの見守りの中で召し上がる等、その方の状態に合わせた支援をしている。

鹿児島県 グループホームさつま苑 B棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その方の排泄パターンをスタッフは把握し、さり気ないトイレの声かけ誘導を行い、トイレで排泄できるような支援をしている。カーテンをする等、プライバシーにも配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・順番・お湯の温度等、本人の希望に合わせて入浴できるようにしており、脱衣所にはカーテンをつけプライバシー保護に努め、その方に合った支援で一人ずつ入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩・体操・レクリエーション・掃除など、その方に合わせた日中活動を促し、ゆっくり眠れるようにしている。その方の疲れ具合を見て、休息の声かけをしている。夜間不眠の方には、主治医と相談して薬剤を含めた安眠策をとっている。		夜間、寝付けない方はスタッフとお茶を飲んだり、おしゃべりをする。又、スキンシップを図る等の配慮をしている。薬剤使用の方は特にトイレ時、不安定歩行となる事があるので気をつけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや掃除・後片付け・髪の手入れ・ブローなどできる仕事をしてもらい感謝の言葉を伝えるようにしている。皆さんと相談しながら花見に出かける機会を作ったり、季節の行事を楽しみながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、お金を持っている安心感と苑で預かっている方でも、自分で支払いをする場面づくりをしている。使用状況は、さり気なく把握させてもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その方の体調に合わせて、気分転換や季節を肌で感じて頂けるよう近くを散歩したり、季節毎に花見やドライブに出かけたり、希望によっては、行きつけの店に出かけている。車椅子の方もスタッフと一緒に外に出る機会をつくっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅や墓参り、学校訪問等、本人の希望に沿って、スタッフや家族と話し合い、協力で実現に向けて取り組みをしている。家族・地域の住民と花見をする機会を作り、外で弁当を食べている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に沿って、すぐ対応できている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は設けておらず、都合の良い時に気軽に訪ねていただいている。ゆっくりと会話ができるように、面会室や個人の部屋への誘導も行っている。スタッフもお茶をお出しし明るく迎えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にともなう弊害を、スタッフ全員が理解しており、身体拘束『0』の取り組みを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしのため、鍵をかけなくて済むよう配慮している。玄関には、センサーも設置してある。隣接の温泉等へも、注意を呼びかけている。		緊急・急用時で、スタッフの人員が少なく見守りに限界のある時は、施錠している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは、業務時にもよく見守り、声かけて居場所を確認している。プライバシーにも配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・刃物・薬等・安全に配慮して保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態を、充分把握し、スタッフ間で共有意識を図っている。ひやり・ハットの記録・事故報告書を作成し、予防策として検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアル・異常時の早期発見マニュアルは作成し、全スタッフに配布しているが、定期的に研修・実技の訓練は行っていない。		緊急救命訓練実施予定
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練・消火器の使い方など入居者・運営推進委員と、一緒に行っている。地域の協力体制については、地元消防団・自治会・近隣住民運営推進委員会議で、協力を呼びかけている。		夜間災害に対応できるよう、夜間の訓練実施予定。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の予測されるリスクについては、家族と話し合いを重ねている。又、状況によって見直し対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフは個々の普段の様子を把握した上で、日々の観察の中で体調・表情の小さな変化を見逃さないようにしている。変化に気付いた時は、すぐにケアマネに連絡しスタッフ間で情報を共有・記録し状況により、主治医へ報告・受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋は、個人ファイルしスタッフがいつでも見て、薬の内容を把握できるようにしている。服薬時は、本人がきちんと服用されたのを確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努め、寒天で作ったデザート・野菜料理・汁物に食物繊維サブリを混ぜる工夫をしている。日常生活の中で散歩やリハビリ体操など体を動かす機会を取り入れ、自然排便できるよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	スタッフは口腔ケアの大切さをよく理解しており、入所者個々の、状態に応じた口腔ケアを毎食後支援している。夕食後は、義歯洗浄を確実にしている。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 B棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を、毎日チェックし記録している。献立は記録を取り、同じようなメニューが重ならないようにし、バランスのよい食事を個々の好みも反映した支援をしている。又、水分補給も把握し、脱水症状をおこさないよう気をつけている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対応マニュアルを作成し、手洗い・うがいの励行、消毒等、その都度行っている。又、日々の掃除の徹底・予防接種も全職員が行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の定期的な掃除や、まな板・布巾の漂白・食器使用後の乾燥等、衛生管理を心がけている。食材の残りの点検をし、毎日、買い物に出かけ、新鮮な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	同敷地内に温泉施設があり、入所者の家族・友人・知人が温泉帰りに気軽に立ち寄られている。玄関周りには、四季折々の花を植え、入所者がベンチに座り季節感を味わったり、お茶を飲めたりするスペースがある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・照明・室内の温度はその場に居る人に合わせて、調整している。調理する音やにおい、食器を洗う音、ゆず湯や菖蒲湯、苑の畑で採れた野菜を使う、味見をしてもらう等、意識して生活感・五感への働きかけを工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関まわり、食堂に椅子・ソファ等を配置してあり、一人でくつろいだり、気の合った方と話しをしたり、お茶を飲んだりできる空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族にお願いして、家族の写真を飾ってもらったり、使い慣れた家具・雑貨・日用品を持ち込んでもらい、入居者の居心地良い空間づくりに取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替え・温度調節は、スタッフは常に心がけており、室温計の確認、入居者の状態、声に気を配っている。トイレ等の換気・消臭にも気を配っている。		冬場は就寝前に暖房を入れたり、足元にアンカを(火傷しないように配慮して)使用する等、安眠を図っている。又、夜間巡回時に、こまめに調節をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さを、その方に合わせている。個々の身体機能に合わせた手すり・車椅子・杖・足台を浴室、浴槽に滑り止めマットを使用し、その方の持てる力を活かした安全な生活が送れるような工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方にとって、混乱や失敗の原因について、スタッフ間で検討し、一人ひとりのかかわる力に応じた環境を整えるように努め、自立した暮らしを支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	遊歩道を整備し、車椅子の方もスタッフと一緒に散歩され、草花や畑の野菜の育ち具合を日々眺めたり、野菜の収穫、草取り、水やり等、その方に合わせた役割活動ができるようにしている。		玄関前の椅子で、のんびりと外気欲をしたり、気の合う仲間とお茶を飲みながら、お話しが弾んだりしている。時には外での体操をしたり、歌ったり、楽しく過ごされている。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホームさつま苑 B棟

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・同敷地内に温泉施設や民宿があり、遠方からくる家族や知人も希望があれば宿泊できます。・苑のまわりには、常に季節の花々を植え、入所者がいつでも花を眺めながら楽しむ事ができるよう、玄関先に椅子を置いて自由に出入り出来るようにしている。・病院受診については、本人・家族の希望に沿い、かかりつけの病院を受診できるよう取り計り、ご家族が同行できない入所者については、担当ケアマネが同行し、苑での状況を報告している。又、ご家族が一緒でも、必要に応じケアマネも同行している。・入所者が入院された場合等、できるだけスタッフも時間を作り、病院へ様子を見に行き、担当ドクターと話をし、早期退院できるよう取り計っている。・日々、手足の運動・体操・レクリエーションを通して、身体機能の維持に努めている。